

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

「ボートのまち登米市」拠点整備プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

登米市

### 3 地域再生計画の区域

登米市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

長沼ボート場には、大会開催時等の拠点となる施設がなく、トイレ、シャワーなどの設備も不足していることで、日本ボート協会公認A級コースで、国内で唯一の常設2,000m・8コースという日本最高峰の優れた競技場であるにもかかわらず、選手等には不衛生な環境の中で利用されてきたことが挙げられる。

また、施設の老朽化等により平成26年度末で宿泊施設として利用できない状態であり、他に、市内に合宿可能な公的宿泊施設が無いことから、市外の大学や高校、企業スポーツの練習や合宿地として、選んでもらう際の重大な弱点となっている。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

長沼ボート場は、2020年東京オリンピック・パラリンピックのボート、カヌー競技会場の候補地となり、東北の被災地の皆様にも勇気と希望を与えるものとなった。また、平成28年度に市民の投票により決定したロゴマークにもボートのイラストが採用されるなど幅広く市民に愛されていることを再認識したところである。

このことから、長沼ボート場クラブハウスを整備することにより、オリンピック・パラリンピックの事前合宿や強化練習会などの誘致に向けた受入基盤の強化や、市民を対象としたボート教室の開催、更に、大学等フィールドワーク誘致促進事業等における宿泊研修施設として利用していただくことで、交流人口等の増加・拡大による地域活性化に繋げるものである。

## 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
市外からの参加を認める主な大会等の参加者数(年間)(人)	5,350	0	25	25
長沼ボート場クラブハウス延べ利用者数(人)	0	0	1,569	50
大学・高校等の合宿数(件)	0	0	7	2

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累計
市外からの参加を認める主な大会等の参加者数(年間)(人)	50	50	150
長沼ボート場クラブハウス延べ利用者数(人)	100	100	1,819
大学・高校等の合宿数(件)	2	2	13

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

長沼ボート場には、大会開催時等の拠点となる施設がなく、トイレ、シャワーなどの設備も不足していることで、日本ボート協会公認A級コースで、国内で唯一の常設2,000m・8コースという日本最高峰の優れた競技場であるにもかかわらず、選手等には不衛生な環境の中で利用されてきたことが挙げられる。

また、施設の老朽化等により平成26年度末で宿泊施設として利用できない状態であり、他に、市内に合宿可能な公的宿泊施設が無いことから、市外の大学や高校、企業スポーツの練習や合宿地として、選んでもらう際の

重大な弱点となっている。

そこで、今後、ボート競技者のみならず、長沼ボート場周辺を利用したスポーツレクリエーションを楽しむ市民等の利用者のために、トイレ、シャワー、更衣室などの設備を備えた合宿ができる拠点施設としてクラブハウスを整備し、オリンピック・パラリンピックの事前合宿や強化練習会などの誘致に向けた受入基盤を強化や、市民を対象としたボート教室の開催、更に、大学等フィールドワーク誘致促進事業等における宿泊研修施設として利用していただき、交流人口等の増加・拡大による地域活性化に繋げるものである。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

### ① 事業主体

登米市

### ② 事業の名称：「ボートのまち登米市」拠点整備プロジェクト

### ③ 事業の内容

本事業は、長沼ボート場を核とした拠点施設としてクラブハウスを整備し、宮城県ボート協会やとめ漕艇協会及び登米市体育協会、民間事業者などと連携し、ボート体験教室や、ボート競技者等合宿の受入、大学や高校等のボート部及び市民等の利用者の利活用の促進のほか、大学等フィールドワーク誘致促進事業による利活用促進などに取組むことにより、「ボートのまち登米市」となるよう一体的なプロジェクトとして実施するもの。

### ④ 事業が先導的であると認められる理由

#### 【自立性】

市直営の拠点施設として、宮城県ボート協会やとめ漕艇協会及び登米市体育協会、民間事業者などと連携して、市民等向けのボート体験教室等を開催し、周辺施設と一体となった利用者の増加策により、利用率の向上による使用料収入の増加を図る。具体的には、想定される平成30年度の使用料収入は約1,400千円で年間維持費を概ね賄うものであり、人件費を含めた運営管理費についても約4,000千円のうち、35%を賄うものとなり、今後、長沼ボート場周辺を利用

した東北風土マラソン&フェスティバルなどのイベント等でも連携を図ることで、さらなる収益拡大が見込まれることから、自立的・継続的な運営を図ることを目指す。また、将来的にとめ漕艇協会及び登米市体育協会などによる管理・運営の両面における民間活力活用に向けて、指定管理者制度の導入を目指す。

### 【官民協働】

宮城県や登米市のほか、宮城県ボート協会やとめ漕艇協会及び登米市体育協会が連携し、オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致活動のほか、長沼ボート場クラブハウス施設利用パンフレットを作成し、WEB上での周知や、埼玉県戸田ボート場、全国ボート場所在市町村協議会、全国高体連ボート専門部などボート関係者が集まるイベントでのPR活動を行い合宿誘致や河北レガッタ等の各種ボート大会への参加を呼び掛けるなど幅広く施設利用について周知を図る。

また、宮城県ボート協会やとめ漕艇協会及び登米市体育協会、民間事業者と連携し、ボート体験を通じた「社会性（コミュニケーション能力）」、「主体性（自助意識の醸成）」、「協調性（共助意識の醸成）」を養える研修プランを提案し、企業や大学等での施設利用を促す。

更に、ボート競技以外での利用促進を図るため、大学等フィールドワーク誘致促進事業や、登米市体育協会との連携により、これまで市外で行っていた交流試合、強化合宿等についての施設利用の呼び掛け、登米市観光物産協会や民間事業者との連携による長沼ボート場周辺を利用した東北風土マラソン&フェスティバル等各種イベントなど観光分野でも利用促進を図り相乗効果を生み出す。

### 【政策間連携】

本事業は、スポーツ分野においては、ボート体験教室や強化合宿などにより、ボート競技人口拡大や競技力向上の底上げを図り、教育分野においては、ボート体験を通じた「社会性（コミュニケーション能力）」、「主体性（自助意識の醸成）」、「協調性（共助意識の醸成）」などを醸成し、観光分野においては、長沼ボート場周辺を利用した東北風土マラソン&フェスティバルなどのイベント等における宿泊施設として観光誘客拡大を図るほか、大学等フィールドワーク

誘致促進事業による利用拡大など、地域資源を活かした戦略的なシ  
ティプロモーションによる総合的な取組を進める。

**【地域間連携】**

オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致では、東北において  
は、本市のほか秋田県大潟村、岩手県花巻市、福島県喜多方市など  
全国ボート場所在市町村協議会加盟市町村との連携により、効果的  
な誘致促進を図る。

また、宮城県及び登米市が連携して、宮城県長沼ボート場及び周  
辺の利活用に向けて取り組みを進めることから、拠点施設となる登  
米市長沼ボート場クラブハウス整備事業を登米市が行い、今後、宮  
城県長沼ボート場艇庫整備事業等を宮城県が行う予定であり、利用  
者の増加及び拡大につなげる。

**⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月**

**【数値目標】**

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
市外からの参加を認 める主な大会等の参 加者数(年間)(人)	5,350	0	25	25
長沼ボート場クラブ ハウス延べ利用者数 (人)	0	0	1,569	50
大学・高校等の合宿 数(件)	0	0	7	2

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累 計
市外からの参加を認 める主な大会等の参 加者数(年間)(人)	50	50	150

長沼ボート場クラブ ハウス延べ利用者数 (人)	100	100	1,819
大学・高校等の合宿 数(件)	2	2	13

## ⑥ 評価の方法、時期及び体制

### 【検証方法】

毎年度5月頃に総合戦略担当課（企画政策課）において、K P Iの達成状況を取りまとめ、庁内組織による検証を経て、外部有識者で組織する登米市総合計画審議会や議会の関与を得て取組効果等の検証を行い、次年度への事業等への反映を行う。

また、検証結果については市ホームページで公表する。

### 【外部組織の参画者】

登米市総合計画審議会委員（識見者（登米市子ども・子育て会議副会長、登米市景観形成会議前会長、登米市都市計画審議会会長、登米市男女共同参画審議会元委員、公立大学法人宮城大学教授）、関係行政機関（宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所所長）、公共的団体（登米市中学校長会会長、特定非営利活動法人登米市体育協会会長、登米市文化協会理事長、一般社団法人登米市医師会副会長、社会福祉法人登米市社会福祉協議会事務局長、登米市民生委員児童委員協議会理事、登米市食生活改善推進員協議会副会長、一般社団法人登米市観光物産協会会長、登米地域商工会連絡協議会幹事、宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部支部長、みやぎ登米農業協同組合常務理事、登米市環境市民会議会員、登米市コミュニティ推進連絡協議会会長、公益社団法人とめ青年会議所元理事長）

## ⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 687,433千円

## ⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5ヵ年度）

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) ボート合宿誘致事業

事業概要：とめ漕艇協会などとの連携により、ボート関係者が集まるイベント等でのPR活動を行い、オリンピック・パラリンピックの事前合宿のほか、大学や高校、企業スポーツの練習などの合宿誘致を図るもの。

実施主体：登米市

事業期間：平成29年度～平成33年度

#### (2) 市民ボート教室

事業概要：とめ漕艇協会などとの連携により、市民を対象としたボート教室を開催し、ボート競技人口拡大や競技力向上を図るもの。

実施主体：登米市

事業期間：平成29年度～平成33年度

#### (3) 大学等フィールドワーク誘致促進事業

事業概要：大学等の学生等で構成する団体が行うフィールドワークを誘致し、フィールドワークを通じて本市の魅力を体験していただき、交流人口の拡大を図るもの。

実施主体：登米市

事業期間：平成29年度～

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

#### 【検証方法】

毎年度5月頃に総合戦略担当課（企画政策課）において、KPIの達成状況を取りまとめ、庁内組織による検証を経て、外部有

識者で組織する登米市総合計画審議会や議会の関与を得て取組効果等の検証を行い、次年度への事業等への反映を行う。

また、検証結果については市ホームページで公表する。

**【外部組織の参画者】**

登米市総合計画審議会委員（識見者（登米市子ども・子育て会議副会長、登米市景観形成会議前会長、登米市都市計画審議会会長、登米市男女共同参画審議会元委員、公立大学法人宮城大学教授）、関係行政機関（宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所所長）、公共的団体（登米市中学校長会会長、特定非営利活動法人登米市体育協会会長、登米市文化協会理事長、一般社団法人登米市医師会副会長、社会福祉法人登米市社会福祉協議会事務局長、登米市民生委員児童委員協議会理事、登米市食生活改善推進員協議会副会長、一般社団法人登米市観光物産協会会長、登米地域商工会連絡協議会幹事、宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部支部長、みやぎ登米農業協同組合常務理事、登米市環境市民会議会員、登米市コミュニティ推進連絡協議会会長、公益社団法人とめ青年会議所元理事長）

**7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容**

**【数値目標】**

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
市外からの参加を認める主な大会等の参加者数(年間)(人)	5,350	0	25	25
長沼ボート場クラブハウス延べ利用者数(人)	0	0	1,569	50
大学・高校等の合宿数(件)	0	0	7	2

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累計
--	------------------------	------------------------	-----------



市外からの参加を認める主な大会等の参加者数（年間）（人）	50	50	150
長沼ボート場クラブハウス延べ利用者数（人）	100	100	1,819
大学・高校等の合宿数（件）	2	2	13

### 7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、総合戦略担当課（企画政策課）が議会への報告後、速やかに市ホームページにより公表を行う。